

日本産業衛生学会

## 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会  
 (事務局 圓藤吟史)  
 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3  
 大阪市立大学大学院医学研究科  
 産業医学分野(環境衛生)内  
 FAX:06-6646-3160  
 発行責任者・圓藤吟史(地方会会長)

<http://www5.ocn.ne.jp/~jsokink/>

## 第48回近畿産業衛生学会 (第3報)

主 催 日本産業衛生学会近畿地方会  
 共 催 大阪大学 医学系研究科 社会環境医学講座  
 学会長 森本 兼曩 (大阪大学 医学系研究科 社会環境医学講座)

日 時 平成20年11月22日(土) 10時10分開始

会 場 大阪大学医学部 銀杏会館

一般演題 10:10~11:46 第1会場: 3階 会議室B

10:10~11:46 第2会場: 3階 会議室C

10:10~11:34 第3会場: 3階 会議室D

幹事会 11:50~12:20 2階 会議室A

代議員会 12:20~12:40 3階 会議室D・E

昼食懇親会 12:40~13:40 2階 ミネルバ(参加無料)

特別講演 13:45~14:45 3階 ホール

ストレス理解: ストレス関連疾患と遺伝子発現

演者 六反一仁(徳島大学)

座長 圓藤吟史(大阪市立大学)

シンポジウム 14:50~17:00 3階 ホール

安寧の労働を求めて: ストレスコミュニケーション

座長 宮下和久(和歌山県立医科大学)・河野公一(大阪医科大学)

環境リスクコミュニケーション 小泉昭夫(京都大学)

上司・同僚のサポートとストレス反応変容 夏目 誠(大阪樟蔭女子大学)

労働格差の意味するもの 堤 明純(産業医科大学)

森林自然交流と働く意欲 茂原 治((財)和歌山健康センター)

職場のストレスのケアとキュア 鈴木純子(日本アイビーエム)

## 学会開催にあたって

## 安寧の労働を求めて: ストレスコミュニケーション

森本 兼曩

(大阪大学 医学系研究科 社会環境医学講座)

第48回近畿産業衛生学会を、大阪大学吹田キャンパス・医学部・銀杏会館にて開催させていただくことになりました。大阪での開催は6年前の大阪医科大学(学会長: 河野公一先生)以来になります。11月の学会当日は、阪大のシンボル銀杏の樹が、キャンパスのあちこちで美しく色づいている時候かと存じます。多くの会員の方々・医師会関連の方々のご来場をお待ち申し上げております。

一般演題は、10時10分スタートとしました。よろしく願いいたします。午前中の熱心な議論を経て、明日の産業保健の課題と展望が見えるようになります事を願っております。

今回の学会は、「安寧の労働を求めて: ストレスコミュニケーション」を総合テーマとさせていただき、午後に、特別講演とシンポジウムを企画いたしました。特別講演は、六反一仁先生(徳島大学 ストレス制御医学)に「ストレス理解: ストレス関連疾患と遺伝子発現」をご講義いただきます。ストレス脆弱性の分子機構の最新の知見をお話いただき、ストレスの本質的理解に迫りたいと願っております。続くシンポジウムでは、「ストレスコミュニケーション」を主題として、5人の先生方にご登壇をお願いいたしました。小泉昭夫先生(京都大学)、夏目誠先生(大阪樟蔭女子大学)、堤明純先生(産業医科大学)、茂原治先生((財)和歌山健康センター)、そして鈴木純子先生(日本アイビーエム)にお話いただきます。演者の先生方、それぞれのお立場と視点から、現代の職場のストレス状況の本質的な理解と対応の人的な方策に関して、産業保健スタッフの方々の日々の活動に関する示唆に富むご講演をお願いしております。

会場の医学部・銀杏会館内には、大阪ロイヤルホテル派遣シェフによるレストラン・ミネルバがございます。ここで、昼食懇親会を企画いたしました。お食事・ご懇談をお楽しみください。

## 第48回近畿産業衛生学会一般演題プログラム

## 一般演題(口演)

第1会場 10:10~11:46 (3階 会議室B)

10:10~10:58

座長:中山 邦夫(大阪大学大学院 医学系研究科  
社会環境医学講座 環境医学)

101 ストレスとライフスタイルに関する予防医学的研究(第47報)朝型・夜型と睡眠・生活満足度の関連性

○中山 邦夫、森本 兼囊(大阪大学大学院 医学系研究科 社会環境医学講座 環境医学)

102 特定保健指導のための基礎資料① 腹囲と特定保健指導の追加リスク:血糖・脂質・血圧の関係

○阿部 志津香<sup>1</sup>、恵 千恵子<sup>1</sup>、小林 正嗣<sup>2</sup>、園 伊知郎<sup>1</sup>、村田 和弘<sup>2</sup>、阪上 院庸<sup>1</sup>、藤田 正憲<sup>1</sup>、木村 隆<sup>1</sup>(<sup>1</sup>近畿健康管理センター <sup>2</sup>株式会社近畿エコサイエンス)

103 特定保健指導のための基礎資料② 腹囲と検査値の分布:血糖・脂質・血圧

○恵 千恵子<sup>1</sup>、阿部 志津香<sup>1</sup>、小林 正嗣<sup>2</sup>、園 伊知郎<sup>1</sup>、村田 和弘<sup>2</sup>、阪上 院庸<sup>1</sup>、藤田 正憲<sup>1</sup>、木村 隆<sup>1</sup>(<sup>1</sup>近畿健康管理センター <sup>2</sup>株式会社近畿エコサイエンス)

104 職域健康診断における緊急判定値に関する検討—緊急判定値の定義と設定値について—

○近藤 佳代、田浦 聖子、笹井 信子、山本 加奈、田中美裕紀、三輪 泰代(SGホールディングスグループ健康保険組合)

10:58~11:46

座長:大脇多美代((独)大阪産業保健推進センター)

105 地域産業保健センターの活性化に関する検討について

○植本 寿満枝(地域産業保健センター)

106 小規模事業場における上司教育型のメンタルヘルス対策について

○森岡 郁晴<sup>1,2</sup>、菊岡 弘芳<sup>1,3</sup>、生田 善太郎<sup>1,4</sup>、宮下 和久<sup>1,5</sup>、岡 久雄<sup>1</sup>(<sup>1</sup>和歌山産業保健推進センター、<sup>2</sup>和歌山医大・保健看護学部、<sup>3</sup>和歌山市医師会成人病センター、<sup>4</sup>住友金属工業、<sup>5</sup>和歌山医大・医・衛生)

107 医療職場における職種間の心理的な健康格差

○和田 安彦<sup>1</sup>、両角 隆一<sup>2</sup>、吉田 辰夫<sup>3</sup>、南都 伸介<sup>4</sup>(<sup>1</sup>関西労災病院 医療情報部、<sup>2</sup>同院 内科、<sup>3</sup>同院 検査科、<sup>4</sup>同院 循環器科)

108 復職支援プログラムの効果について—プログラムへの参与観察を通して—

○山田 妙詔<sup>1</sup>、阪田 朝子<sup>2</sup>(<sup>1</sup>関西福祉科学大学、<sup>2</sup>医療法人あけぼの会メンタルヘルスセンター)

第2会場 10:10~11:46 (3階 会議室C)

10:10~10:58

座長:竹下 達也(和歌山県立医大 医  
公衆衛生学教室)

201 飲酒頻度、ALDH2遺伝子多型とコメットアッセイ法で検出した末梢血白血球のDNA移動量との関連性

○呂 玉泉、森本 兼囊(大阪大学大学院 医学系研究科 社会環境医学講座 環境医学)

202 ライフスタイルによる末梢リンパ球のDNA損傷の差

○翁 華春、森本 兼囊(大阪大学大学院 医学系研究科 社会環境医学講座 環境医学)

203 DNA損傷におけるXRCC1遺伝子と環境因子の関連性

○翁 祖銓、翁 華春、呂 玉泉、森本 兼囊(大阪大学大学院 医学系研究科 社会環境医学講座 環境医学)

204 紡績業の深夜業問題:1910年代の大阪の工場医の調査報告

○原 一郎(大阪産業保健推進センター)、宇多弘次(元香川医科大学)

10:58~11:46

座長:佐野 敦(パナソニック エレクトロニクス  
デバイス株式会社 本社健康管理室)

205 新しい判定区分による頸肩腕障害検診について

○中村 賢治(なかむらけんじ)<sup>1</sup>、重田 博正<sup>1</sup>、埴田 和史<sup>2</sup>、北原 照代<sup>2</sup>、辻村 裕次<sup>2</sup>、(<sup>1</sup>大阪社会医学研究所、<sup>2</sup>滋賀医科大学 社会医学講座 衛生学部門)

206 ぶどう果房の管理作業における筋負担の検討

○辻村 裕次<sup>1</sup>、埴田 和史(たおだかずし)<sup>1</sup>、北原 照代<sup>1</sup>、中井 洋子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>滋賀医科大学 社会医学講座 衛生学部門、<sup>2</sup>滋賀県農業技術振興センター 栽培研究部 花き・果樹分場

**207 農業用トラクターによる暴露全身振動**

○埤田 和史、辻村 裕次、加藤 正人、北原 照代 (滋賀医科大学 社会医学講座 衛生学)

**208 訪問介護事例における安全衛生上の問題点の抽出と改善提案**

○北原 照代、埤田 和史、辻村 裕次 (滋賀医科大学 社会医学講座 衛生学)

**第3会場 10:10~11:34 (3階 会議室D)**

10:10~10:58

座長：和田 安彦 (関西労災病院 医療情報部)

**301 大気中鉛の数値シミュレーション**

○新添 多聞<sup>1</sup>、中村 英輔<sup>1</sup>、原田 浩二<sup>1</sup>、石川 裕彦<sup>2</sup>、小泉 昭夫<sup>1</sup> (<sup>1</sup>京都大学大学院医学研究科、<sup>2</sup>京都大学防災研究所)

**302 人体血中鉛の数値シミュレーション**

○中村 英輔、新添 多聞、原田 浩二、小泉 昭夫 (京都大学大学院医学研究科)

**303 室内空気質中フッ素テロマーアルコール類の評価**

○原田 浩二、桜町 惟、高橋 慧、小泉 昭夫 (京都大学大学院医学研究科)

**304 尿中NMAC濃度分析方法の検討—直接法と抽出法の比較—**

○前島 幸<sup>1,2</sup>、河合 俊夫<sup>2</sup>、上田 高彦<sup>2</sup>、宮下 和久<sup>1</sup>、池田 正之<sup>3</sup>

(<sup>1</sup>和歌山県立医 衛生学教室、<sup>2</sup>中災防 大阪センター、<sup>3</sup>京都工場保健会)

10:58~11:34

座長：原田 浩二 (京都大学大学院医学研究科)

**305 硝酸カドミウム経気道的反復曝露による亜急性影響**

○土手 友太郎、今西 将史、山鳥 江美、谷田 会里、辻 洋志、河野 公一 (大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学 I・II)

**306 フッ酸気管内投与後の急性毒性影響**

○今西 将史、土手 友太郎、山本 君代、山鳥 江美、藤

本 圭一、谷田 会里、河野 公一 (大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学)

**307 ICP発光分析法を用いた簡便な尿中Scの測定法と生物学的暴露指標としての有用性の検討**

○谷田 会里 (大阪医科大学衛生・公衆衛生学教室)

幹事会 11:50~12:20 (3階 会議室C)

代議員会 12:20~12:40 (3階 大会議室)

昼食懇親会 12:40~13:40 (2階 ミネルバ)

特別講演 13:45~14:45 (3階 ホール)

ストレスの理解：ストレス関連疾患と遺伝子発現

演者：六反一仁(徳島大学)

座長：圓藤吟史(大阪市立大学)

シンポジウム 14:50~17:00 (3階 ホール)

安寧の労働を求めて：ストレスコミュニケーション

座長：宮下和久(和歌山県立医科大学)

河野公一(大阪医科大学)

環境リスクコミュニケーション

小泉 昭夫(京都大学)

上司・同僚のサポートとストレス反応変容

夏目 誠(大阪樟蔭女子大学)

労働格差の意味するもの

堤 明純(産業医科大学)

森林自然交流と働く意欲

茂原 治 ((財)和歌山健康センター)

職場のストレスのケアとキュー

鈴木 純子 (日本アイビーエム)



## 会場への交通機関

## 【大阪モノレール】

万博記念公園駅で彩都線(国際文化都市モノレール線)に乗り換え、「阪大病院前」下車、徒歩約3分

## 【JR茨木駅から】

近鉄バスで「阪大病院・阪大本部前」行きに乗車。終点「阪大本部前」下車、徒歩約2分

## 【阪急茨木市駅から】

近鉄バス「阪大本部前行」(JR茨木駅経由)で、終点「阪大本部前」下車、徒歩約2分

## 【北大阪急行線 千里中央駅から】

阪急バス「阪大本部前行」または「茨木美穂ヶ丘行」で、終点「阪大本部前」下車、徒歩約2分



## 第48回近畿産業衛生学会特記事項

## 1. 参加手続

事前申込みは必要ありません。学会参加申込みは、学会当日9:30より受付いたします。学会参加費は日本産業衛生学会の学会員1000円、非学会員3000円です。

## 2. 一般口演の演者の方へ

- 1) 1演題12分(口演7分、質疑応答5分)です。会場内に次演者席を用意しています。進行は座長の指示に従ってください。
- 2) 発表にはPower Pointをご使用ください。発表用ファイル(Windows Power Point 2000)は11月14日(金)までにEメールで送信するか、またはCD-Rを事務局までお送りください。
- 3) 学会誌「産業衛生学雑誌」掲載用の抄録(演題名、発表者、所属、発表の概要(本文400字以内)をWordファイルの形式で11月14日(金)までに事務局宛にお送りください。

## 3. 幹事会および代議員会

幹事会は3階 会議室Cで11:40より、代議員会は3階大会議室で12:20より行います。

## 4. 懇親会

昼食懇親会を2階 ミネルバにて行います。会費は参加費に含まれております。多数ご参加ください。

## 5. 認定産業医および認定産業医を目指す方へ

特別講演・シンポジウムに関しては、日本医師会産業医研修の単位認定(基礎研修(後期)または生涯研修(専門)の3単位)があります。日本医師会産業医研修の単位認定をご希望の方は、事前申し込みが必要です。事務局宛に、単位認定をご希望の旨と、氏名・所属・連絡先を送信してください。申込み受理後、学会事務局から「受講受付」の返信をいたします。

## 6. 産業看護職の方へ

特別講演・シンポジウムに関しては、日本産業衛生学会産業看護職継続教育(実力アップコース)単位認定があります。当日、受付の担当者にお申し出ください。

## 7. 学会事務局 (問い合わせ先)

大阪大学 医学系研究科 社会環境医学講座 第48回近畿産業衛生学会事務局 中山邦夫  
〒565-0871 吹田市山田丘2-2 Tel: 06-6879-3922 Fax: 06-6879-3928  
E-mail: nakayama@envi.med.osaka-u.ac.jp  
<http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/envi/kinkisanei/kinkisanei1.html>

## 産業医部会からのお知らせ

下記日程でケースカンファレンス研修会（共催：大阪府医師会、大阪産業保健推進センター）が開催されます。

「産業医職場診断」：平成20年11月8日・平成20年12月6日・平成21年1月24日

「職場巡視に関して」：平成20年11月15日

「メンタルヘルス」：平成20年10月31日

第13回近畿産業医部会研修会が、平成20年10月4日（土）に大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室において久保田昌詞（大阪労災病院 勤労者予防医療センター）実行委員長のもと下記の内容で開催されました。

メインテーマ 『新型インフルエンザ』

基調講演 『新型インフルエンザの脅威と経鼻ワクチン開発 -産業・社会崩壊を防ぐために-』

講師 長谷川秀樹（国立感染症研究所 感染病理部第2室）

シンポジウム 『新型インフルエンザのパンデミックに備えて -事業所における対策-』

シンポジスト 木村 正義（住友商事（株） 本社 診療所）

全 羽（パナソニック健康保険組合 健康管理センター）

長田芳成（関西電力（株）人材活性化室 安全衛生グループ）

川村尚久（大阪労災病院 小児科）

## 産業技術部会からのお知らせ

平成20年度の技術部会の総会と研究会は平成21年1月に予定しています。特に技術部会の輪を広げる為に、作業環境測定協会や、学校保健師会などとの協同企画の研究会を計画しています。学校保健師会とはシックハウスの討論会についての具体的な進め方について話し合いをする予定です。是非多くの学会会員の参加を得て、活発な討論会が出来るようにと望んでおります。どうぞ皆様のご意見をお寄せください。（tkawai@jisha.or.jp）

## 産業看護部会からのお知らせ

<研修会関係>

I. 特別研修会

1) 日 時：平成20年12月9日（火） 14時00分～16時00分

2) 会 場：大阪産業保健推進センター 研修室

〒541-0053 大阪市中央区本町2丁目1番6号 堺筋本町ビル9F

3) テーマ：「最近の感染症について」～新型インフルエンザの最新情報～

4) 講 師：大阪産業保健推進センター 相談員 橋本 博 先生

※ 産業看護職継続教育実力アップ単位申請中

II. 実力アップ研修会 第2回目

1) 日 時：平成21年1月24日（土） 13時30分～16時00分

2) 会 場：中央労働災害防止協会大阪労働衛生総合センター

〒550-0001 大阪市西区土佐堀2-3-8

3) テーマ：「事務所則に基づく作業環境管理とリスクセグメントの導入」

～ 実習・産業看護職として必要な環境測定と結果の見方 ～

4) 講 師：中央労働災害防止協会大阪労働衛生総合センター 河合俊夫 先生

※ 産業看護職継続教育実力アップ単位申請中

<産業看護職員状況>

近畿産業看護職員（2008年10月1日現在）

保健師 248名 看護師 152名 合計 400名 （近畿地方会全会員比 31.2%）

## 産業精神衛生研究会報告

大阪樟蔭女子大学大学院 夏目 誠



メンタルヘルス専門の活動を行っている近畿地方会産業精神衛生研究会の活動について報告する。

年に3回開催、身近な事例と討論を重視なので毎回60名は参加

近畿地方会産業精神衛生研究会は、年に3回、2時間半の実践活動や研究報告を基本に行うとともに啓発活動もしている。会員は150名を超え、毎回60～70名の参加がある。メンバーは産業医や精神科医、産業看護職、産業カウンセラー、大学教員、臨床心理士が多い。テーマは会員にアンケートをとり要望が多いものを中心に行う場合と、盛り上がったコンテンツをさらに深

めるために、引き続き行う場合の2つである。専門の講師から身近な事例を中心に、具体的に講演していただくので好評である。その後にフリー討論をするが、多くの質問がでて、活発な意見交換が行われている。

本音で話せるし、ネットワークづくりもできる

質疑応答を講演と同様の時間をとり、重視している。学会ではないので「格式ばった形式」をとらず、本音で話せることを目標にしている。メンタルヘルスケアの「新しい流れや知見」などの知識習得、事例対応のポイントの把握である。あるいはメンタルヘルスケアの職場では「1人職種」が多いのでネットワーク作りに寄与できている。それは参加者の意見や参加人数などから類推できる。

本年度は「メンタルヘルス現場における最近の傾向」から

テーマは「メンタルヘルス現場における最近の傾向」であり、エル大阪で平成20年7月7日(月)午後6時30分から午後9時に行われた。60数名が参加し関心が高い内容なので盛り上がった。座長は大阪樟蔭女子大学大学院の夏目 誠である。

話題提供者として住友病院メンタルヘルス科副部長の花谷隆志先生は「適応障害に見る現状」と題して多くの事例をあげ、早期発見の手がかりや職場要因と個人要因の分析、診断と対応のポイントを説明した。わかりやすく、まとまった内容なので好評であった。次いで箕面神経サナトリウム・精神科医の近藤真前先生は“自己愛病理”“発達障害”による不適応の事例を提示し、具体的に診断と対応の実際を解説した。最後にシニア産業カウンセラーの菊池節子先生は、企業における事例を提示し、交流分析を用いた対応について説明するとともに考察を加えた。ポイントについており、具体的であるために好評であった。フロアとの活発な議論がなされ理解が深まって行った。

次回は「いま、職場で混乱している適応障害をめぐって」

平成20年10月27日(月)午後6時30分から午後9時でエル大阪7階708号室で行われる。講師は大阪市大准教授の井上幸紀先生、住友病院心療内科副部長 花谷隆志先生、大阪市産業医の出雲谷恭子先生である。

## 産業看護部会研修報告 「効果の上がる保健指導とは」保健指導の実際を受講して

北大阪地域産業保健センター 保健師 益江 淑子

特定健診・特定保健指導が導入され、効果的な保健指導が求められる中で、

国際医療福祉大学 荒木田美香子先生の第1回定例研修会(7月5日)に参加した。

内容は ①保健指導と特定保健指導について ②クリニカルパスと特定保健指導 ③特定保健指導の実際を考える

④保健指導の情報交換であった。

特定保健指導は、ある程度の標準化が可能であることから、保健指導の過程については、クリニカルパスに落とし込むことが出来るとのこと。クリニカルパスを活用することで、地域や医療機関との連携がとりやすくなり、指導内容の改善点を明確にするバリエーション分析にアウトカムをつき合わせることで正確な保健指導の評価が出来る。実際に使用されている糖尿病地域連携クリニカルパスなどが紹介された。

特定保健指導の実際を考えるでは、保健指導のプロセスとバリエーション、バリエーションの要因について図式化したものを用いて、実際に保健指導した事例を参考に行動変容のステージ(無関心期・関心期・準備期・実行期・維持期)の変化に合わせた保健指導プロセスや行動変容プロセス、そのとき生じたバリエーションについて要因を分類し、要因への対策を出来るだけ組み込んでパスへの改良をつなげていくプロセスについて詳細な説明があった。

保健指導の情報交換では、指定された行動変容ステージに実際に実施している保健指導について具体的なこと、今後やってみたいことをグループ別に討議し発表した。グループでのディスカッションでは、各事業所の特徴・困っていること・成功したこと等様々な意見や質問が出て、時間も足りないほど熱心な討議がされていた。今回、貴重な講義に参加することが出来、保健指導に是非クリニカルパスを用いた方法を実施し、効果の上がるものを提供できるように意欲的に取り組みたいと思った。

### 第33回産業衛生講座講習会のご案内

日本医師会認定産業医制度 基礎研修（後期）/生涯研修（専門）3単位（申請中）  
共催）大阪府医師会 大阪産業保健推進センター

日時：平成20年12月13日（土）14時～17時  
会場：大阪医科大学 新講義実習棟1階（P101）  
講演Ⅰ：化学物質取り扱い業務による健康障害の予防および対策  
土手友太郎 大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学Ⅱ 准教授  
講演Ⅱ：生活習慣病と産業保健－特定健診・保健指導の意義と期待されるもの－  
日高秀樹 三洋電機連合健康保険組合保健医療センター 所長

座長：車谷典男 奈良県立医科大学 地域健康医学 教授

募集人数：150人（先着順）

受付開始日：平成20年11月1日

対象者：産業医、産業医をめざす者、産業看護職、産業保健実務担当者

受講料：「産業医学実践講座」を第2版に新規改定しました。登録者（第30回H19.12/8、第31回H20.3/8、32回6/14第受講者）は2,000円、未登録者はテキスト代（「産業医学実践講座」販売価格9,000円）を含め8,000円です。

申込方法：以下の必要事項をご記入の上、E-mailでご送信下さい。

（無理な場合はFAX）申込受付後、受講可否について連絡いたします。

- i) 講習会名（第33回講習会）
- ii) 氏名、ふりがな  
（登録されていた方は4ケタの旧登録番号もご記入下さい。今後は新規登録番号になります。）
- iii) 連絡先（〒・住所・E-mail・電話・FAX）
- iv) 所属地区医師会（医師のみ）
- v) 日本産業衛生学会の学会員か？ 否か？

申込先：E-mail: hyg035@art.osaka-med.ac.jp  
Fax：072-684-6519

連絡先：大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学 土手or三井（秘書）電話 072-684-7368

### 第42回中小企業安全衛生研究会全国集会のご案内

代表世話人 平田 衛（労働安全衛生総合研究所）  
担当世話人 熊谷信二（大阪府立公衆衛生研究所）  
森口次郎（京都工場保健会）

会期：平成20年12月20日（土）10時から17時まで  
会場：エルおおさか（大阪府立労働センター）5階  
研修室2  
大阪市中央区北浜東3-14 地下鉄谷町線・京阪  
電鉄「天満橋」駅から西へ300m  
(<http://l-osaka.or.jp/>)

主催：日本産業衛生学会 中小企業安全衛生研究会  
共催：日本産業衛生学会近畿地方会

テーマ：中小企業の産業保健を活性化する職場風土  
プログラム：

- 一般演題
- 特別報告「ワーキンググループからの提案 中小企業における労働衛生の推進に向けて」  
平田 衛（労働安全衛生総合研究所）
- 基調講演「小規模事業場の産業保健ニーズとサービス提供のあり方に関する調査研究報告（仮）」  
茅嶋 康太郎（産業医科大学 産業医実務研修センター）
- シンポジウム「中小企業の産業保健を活性化する職場風土を育むために求められること」
  - ・経営者の立場から 辻本 大和（株式会社 辻本）
  - ・労働組合の立場から 西野 方庸（連合近畿労働安全衛生センター）
- ・総合討議

一般演題募集要項

- 1 一般演題発表形式は、口演発表のみです。
- 2 抄録締切日は平成20年11月7日（金）必着です。
- 3 抄録作成要領については事務局にお問い合わせください。

事務局：〒611-0031 京都府宇治市広野町成田1-7  
TEL：0774-48-1278 FAX：0774-48-1286  
財団法人 京都工場保健会宇治支所  
産業保健推進部 産業保健推進室内  
中小企業安全衛生研究会全国集会事務局 森口次郎  
E-mail: moriguchi@kyotokojohokenkai.or.jp

## 会員の声

### 看護大学教育に携わって



園田学園女子大学  
人間健康学部人間看護学科  
中島 美繪子

企業の健康管理に10年以上関わり、研究発表や論文をまとめたりしていた関係で、看護大学で教鞭を取り現在に至っています。公立の看護大学で8年間、私立の女子大学の看護学科で2年余、地域看護・産業看護領域で教育・研究・実習に関わって来ています。

最近、東京や大阪、神戸の学会や講演会、研修会などで、卒業生に出会い、声をかけられることがあります。出会った卒業生は地域で勤務する人、病院に看護師として勤務した後に病院で保健師として勤務している人、職場で保健指導・相談、健康管理に従事している人が多いのですが、なかには家族(夫)の転勤のため地元を離れて東京で再就職し産業保健・産業看護に従事している人もいます。皆それぞれに個性を生かして、伸びやかに、生き生きと、情熱を持って抱負を語る姿に接し、彼女たちの学生時代と重ね合わせうれしくなつかしく思っています。明るくモダンなキャンパスで、啓発され学び、恵まれた臨地実習先できびしく親身な指導を受け、実践し、体験を重ね総合的に保健・看護のサイエンスとアートを学修するプロセスは卒業生一人ひとりに根付き、開花し

つつあるのでしよう。

現在、近松門左衛門が尼崎市にある広済寺で晩年を過ごしたことから、近松研究の拠点・近松研究所を有する園田学園女子大学に所属しています。若い学生に囲まれ、産業保健・産業看護で培った知識や体験を伝えることが出来る立場にあることをうれしく思っています。産業保健・産業看護の講義への学生の感想では、「企業の保健室のようなものをイメージして授業を受けたが、総括管理(マネジメント)、作業管理、作業環境管理、健康管理、労働衛生教育・健康教育について学び、産業看護の役割について基礎的な理解が得られた」などとしています。メンタルヘルスの4つのケア等について新鮮に受け止めています。

独立行政法人労働者健康福祉機構産業保健推進センターの相談員を続けており、その間、「保健指導における県内企業の産業保健師・看護師の連携システムづくりのための調査研究」、「兵庫県内企業の高脂血症に対する保健指導の指標の作成とその活用方策について」等をまとめています。

保健指導、喫煙を中心とした健康リスクリダクション、労働生活の質などが関心事です。

高い目標をかかげ、それを達成していく研究には至らないのですが、身の丈にあった教育・研究に当たっているといえましょう。私が看護大学の教員になった時には大学は43校でしたが、平成19年4月現在、看護系大学は158校、大学院修士課程・博士課程前期101校、大学院博士課程・博士課程後期43校を数えるに至っています。今後産業看護領域においても、更なる実践・教育・研究がなされることを期待している昨今です。

### 産業保健職の独り言

～時代に即応したさらなる支援とは～



キヤノンマーケティングジャパン(株)  
大阪支店  
石山 珠江

今の世の中、何かおかしい。

ここ十数年のニュースをみる

と人間の命を脅かす食住の問題が次々と浮上し、また人間関係のもつれや自己欲求のための事件も多発している。国民の命、生活を守るべき国の信用も薄れつつある。40年以上前の日本では想像できなかったのでは。しかし一方、法令遵守、エコを重要視しない企業は廃れる傾向になっている。経済大国であった日本の国際ランキングも2006年16位、2007年24位と下がっている。国際競争力に勝つために産業界も最小限の人、時間、お金で最大限の経営効率を高めようと努めている。評価制度、管理システムの導入もその一つである。が、弊害も生じている。

サービス残業とモチベーション、コミュニケーションの低下による心身の健康障害の問題がそれである。今では一般職だけではなく、管理職にも波及している。

このような社会、経済、職場環境の中で産業保健職はどのように対応すべきであろうか？表面上の問題のみ捉えていないだろうか？本質をきちんと見つめているのか？健康障害の発症要因が社内(人間関係、業務量、質)であれば本人、産業保健職、人事、上司、主治医、リワーク機関等々と連携を取合うことにより寛解することが多く、予防対策もとりやすいが、親族、本人自身の問題等が複合的に混じっていると、寛解も難しい。複合的な要因を解決するためには地域や学校保健に携わる専門家との連携が必要不可欠である。又、適切に対応するためには社外ネットワークを広げることも重要である。それ故、各会員の時間的、経費的な無駄を省くためにも近畿地方会で近畿のネットワーク情報を作成していただきたい。またタイムリーに産業衛生の最新情報をホームページへ掲載していただき、地方会会員の個々のパスワードでアクセスできるようになればより地方会会員が増えるのではないのでしょうか？

## 会員の声

### 特定健診が始まった



開業医 産業医  
労働衛生コンサルタント  
吉田 隆行

編集委員の先生から「会員の声の原稿を書いてもらいたいんだけど」と言われ、困ったなあ、何を書いたらいいのか全く思いつかないなあと思いつながら、口では「わかりました。特に、内容の指定は無く、思った事を自由に書けば、いいんですね。」と快く、返事をし、お受けしました。困った、何について書こうかなあ。そうだ、特定健診が今年から始まっているので、その事について書くことにしよう。ということで書かせて頂きます。

滋賀県の医療機関では、6月から特定健診が始まりましたが、それに先立って、大きな問題が、2つありました。1つめの問題は、健診をする機関は数多くある各保険者と個別に委託契約を結ばなければならない事です。この事に対し、滋賀県医師会では、各健診機関の契約事

務手続きの簡素化や受診者の県内フリーアクセスを確保することを目的とし、健診機関を代表して、市町村国保や被用者保険の各代表保険者と集合契約を結ぶ事になりました。2つめの問題は、特定健診、特定保健指導の結果を電子媒体で保険者に提出しなければならない事で、これが大きな問題となっていました。滋賀県医師会では、検査会社11社と滋賀県健康づくり財団の三者で電子化業務の委託契約を結び、電子化システムを構築することになり、当面の問題は解決しました。

さて、いよいよ、特定健診が始まりました。来院された方から、心電図は無いのですかとか（医師の判断による追加項目として心電図があるが、医師の裁量の部分は全くと言っていいほどありません）、健診項目はこれだけですかという声がよく聞かれます。今までの健診の感覚で来られる方も多く、メタボリック・シンドロームや生活習慣病という言葉を知っていても、特定健診の趣旨を理解している方は少ないように思われます。健診に引き続き、特定保健指導も始まろうとしています。生活習慣病を防ぐ為に、運動指導及び食事指導をする事が主になるわけですが、肥満の方（特に女性）に対しては繊細な部分もあり、注意が必要で、コーチングを利用した指導をしたいと思っています。

### 産業衛生技術部会の 活性化を目指して



中災防大阪労働衛生  
総合センター  
竹内 靖人

7月から近畿地方会にお世話になっています、中災防大阪労働衛生総合センターの竹内靖人と申します。大阪センターには、以前も勤務しており（平成11年～15年）、その際にも近畿地方会にお世話になりました。今回、中国四国安全衛生サービスセンター（広島県）からの転勤ですが、広島では中国地方会にお世話になり、産業衛生技術部会の全国大会のお手伝いもさせて頂きました。

広島では5年間勤務をし、毎日のように事業場に出掛けて、作業環境測定業務を行っていました。広島は自動車産業に関連した事業場が多くありますが、それ以外にも全国的に有名なメーカーもいくつかあり、勤務してすぐは「え！この製品、広島で作っていたの！」という驚きが多かったことを覚えています。また自動車産業もグローバルな業界であるため、国内メーカーのみの受注ではなく、海外メーカーからの仕事を請け負っている会社も多く、現場で使用している化学物質を見ても、あまり見たことのない名前物質も多く使われていました。自

主的なリスクアセスメントを進めている事業所からは、そのような物質の有害性を踏まえ、どのように管理し、使用していけばよいかなどの難しい課題を多く頂き、大変勉強になりました。広島での勤務は、現場というものを肌で感じられる貴重な経験をさせて頂きました。また、岡山大学大学院にも社会人大学院生として入学させて頂き、故吉良尚平教授ならびに荻野景規教授のご指導のもと、学位を取得させて頂きました。

さて、今回大阪に帰ってきて一番の驚きは、大阪センター周辺（西区土佐堀）の景観が随分と変わったことです。大きなビルやマンションが立ち並び、5年間という時間の長さを感じさせられます。大阪センターでは広島とは違い、主に分析業務を担当することになりましたが、当面力を入れて行わないといけない業務は、中災防が厚生労働省より委託を受けて行っている「未規制化学物質のリスク評価」事業です。産業界で使用されている主な化学物質は、約57,000種類を超えと言われていますが、作業環境測定方法や暴露限界値が示されている物質は、多くありません。また今後も、事業者にはリスクアセスメント指針による管理が求められています。前述致しました広島での経験は、このような課題について少なからず活かすことができるものと感じています。

近畿地方会の先生方には、これから多々ご指導を賜ることになると思いますが、近畿地方会の産業衛生技術部会の一員として頑張りたいと思いますので、今後とも宜しくお願い致します。

シリーズ

自己紹介

## 私たちの職場 (11)

## バランスを意識した保健指導をめざして

日本通運株式会社 大阪旅行支店 営業管理課 保健師 森田理江

日本通運といえば、みなさんは新幹線を運ぶ運送会社、または身近なところではペリカン便を良くご存知でしょうか。日本通運は1937年に創立され、鉄道や自動車による運輸事業の他に、航空事業部や海運事業部、警備輸送事業部など、国内外における様々な物流サービスを提供する会社で、昨年創立70周年を迎えました。

旅行事業部である通称「日通旅行」は、大阪、東京そして名古屋に支店があり、国内外に多くの拠点を持っています。日通旅行の海外パッケージ旅行の商品である「旅のソムリエ」は、40年にわたって多くの方々にご利用いただいている商品です。その他にも国内旅行をはじめとする業界や学会などの研修旅行や、小中高校生を対象とした教育旅行なども多く取り扱い、様々に変化する旅行の目的に応じて、商品を開発し営業活動を行う積極的でオリジナリティにあふれた部門です。

日本通運には、従業員の健康教育、保健指導のために各支店に保健指導員と呼ばれる看護職が配置されており、その人数は全国で約180名に達します。毎年、全社的な施策として「安全衛生管理方針」が本社から示されるので、それを基本として各支店による衛生活動計画が展開されることとなります。このような衛生活動のツールのひとつとして、“ウォークラリー”といったウォーキングによる健康づくりや、“ストレスチェックシート”を利用したメンタルヘルス対策のためのキャンペーンを自社の健保組合が定期的に行っており、保健指導員を通じて従業員に案内されています。今年度の衛生活動の中心になっているのは、昨年に引き続いて「過重労働による健康障害防止」のための疲労蓄積度チェックなどがあげられますが、2007年度からは、運転業務に携わる従業員に対する睡眠時無呼吸症候群のパルスオキシメーターによるスクリーニングが実施されるようになり、看護職として支援していく部分は多面的になっています。

私は昨年7月から大阪旅行支店に週2日のペースで看護職として単独で勤務していますが、関西地区全体では約30名の保健指導員が活動しています。事業所としての組織や普段の業務は別々ですが、同じ看護職として定期健康診断を通じて情報交換をし、私のように社内での経験が浅い場合は、相談に乗っていただくことも多く、大変心強いつながりだと思っています。また、大阪旅行支店は規模としては大きくはない職場ですが、私の勤務時間が限られているので、全ての従業員とコミュニケーションをとり、問題点を把握するのが難しいところがあります。そこで、いろいろな相談のために来室する従業員や、管理職者面談を通じて、職場の状況について詳細な情報収集をし、そこを基点にネットワークを広げ、アプローチの必要な部分を探るようにしています。このようなネットワークを個人個人に意識してもらうことによって、自分自身や周囲の健康管理に対する認識も高めるのではないかと思います。

日本通運ではこれまでから、定期健診受診後に従業員全員の面接を行ってきましたが、今年度から導入された「特定健診・特定保健指導」については、会社や健保組合の方針が目される所でした。先日、社内の「特定保健指導」に関する研修を終え、日通健保として取り組み方や、今後の特定健診実施計画に係る目標値の設定基準など詳細な説明がありました。また、「特定健診・特定保健指導」を実施するために導入されたシステムでは、健診機関から送付される結果は、全て電子データとしてパソコンによる検索が可能となり、保健指導計画やポイント計算、実施状況の把握や結果の報告に至るまで、全て指紋認証によるデータベースの利用が可能になりました。また、その電子データを利用することによって、様々な分析や統計処理が実施できることになり、健診データ管理の利便性が飛躍的に進歩したことから、このシステムを利用して、今後の保健指導に十分活かすべきだと思いました。

特定保健指導が開始されることは、実施する保健指導の効果が注目が集まり、保健師として改善率などの数値目標を意識せざるを得ないと思いますが、これまでの健診や保健指導よりも、“誰が何をいつまでに達成するのか”という目標が明確になることによる効用や、健診データの管理や分析がしやすくなるなど良い効果も多いのではないかと考えています。特定保健指導のポイントは押さえつつ、必要な従業員へ必要な保健指導を実施するというこれまでどおり柔軟な対応を心がけ、看護職の対応が強く求められているメンタルヘルスや過重労働などの問題も、それぞれの問題がひとりの個人につながっている側面であり、トータルに従業員への支援と提案ができるように日々取り組みたいと思っています。



## 平成20年度第2回定例幹事会

日時 平成20年8月25日(月) 18:00~19:00  
 場所 大阪市大医学部学舎 12階セミナー室1  
 出席 圓藤 植本 岡田章 車谷 上田 大脇 鍵谷  
 河合 木村 清田 土手 佐野 鮫島 夏目  
 西山 廣部 森岡 中山(第48回近畿産衛学会  
 事務局)  
 欠席 岡田邦 荒木田 小泉 竹下 長澤 宮上  
 山田 河野(敬称略、順不同)

## 【報告および議題】

## 1. 第48回近畿産業衛生学会(大阪)について

中山邦夫事務局長より進捗状況が報告された。

- 演題申込みの協力と、プログラムについて説明がなされた。
- 大学の施設を使用するため、大阪大学環境医学教室共催とすることを承認して欲しいとの申し出があり、幹事会で承認された。
- 日医認定産業医の単位取得に関しては、原則的に事前登録とする事にした。

## 2. 平成20年度学会役員選挙について

6月の総会で7名の選挙管理委員が選出されているが、第1回の選挙管理委員会で委員長を互選して決定するまで暫定的な選挙管理委員長として森岡郁晴委員が幹事会で推薦された。幹事で選挙管理委員でもある他の2名からも賛成され、森岡委員の承諾も得た。

## 3. その他

- 第42回中小企業安全衛生研究会全国集会在大阪で開催されるにあたって近畿地方会共催とできないかと問合せがあった件について審議した。近畿で開催され、近畿地方会員が主催するという事で共催が承認され、研修会の補助金(3万円)申請の権利も認められた。

## 新型インフルエンザ研修会の案内

近年、近年の高病原性鳥インフルエンザの散発的なヒトの感染発症例が数多く報告されています。この鳥インフルエンザウイルスが変異し、人から人に感染する新型インフルエンザウイルスが発生する可能性も危惧されています。新型インフルエンザウイルスによる感染症の発生時に、その広がりを抑え、被害をできる限り小さくするためには、国や自治体における対策はもちろんの事、事業場においても必要な準備を進め、実際に発生した際は適切に対応していくことが大切です。

そこで、産業保健推進センターでは、産業医等の産業保健関係者に対して最新の情報を提供するとともに具体的な感染予防のための対策について理解を広めることを目的として、研修会が予定されています。

日程は、以下のようになっています。

- 滋賀産業保健推進センター  
12月18日(木) 14:00~16:00 会場:滋賀産業保健推進センター
- 京都産業保健推進センター  
11月12日(水) 14:00~16:00 会場:メルパルク京都
- 大阪産業保健推進センター  
10月28日(火) 14:00~16:00 会場:大阪産業保健推進センター  
12月9日(火) 14:00~16:00 会場:大阪産業保健推進センター
- 兵庫産業保健推進センター  
12月上旬、1月下旬 会場:未定
- 奈良産業保健推進センター  
10月9日(木)に終了。
- 和歌山産業保健推進センター  
10月30日(木) 14:00~16:00 会場:和歌山県民文化会館

詳しくは、それぞれの産業保健推進センターにお問い合わせください。

男性用スキンケア化粧品

UL・OS ウル・オス 新発売!



スキンローション200ml メーカー希望 1890円(税込)    スキンミルク200ml メーカー希望 1890円(税込)    スキンクリーム80g メーカー希望 1260円(税込)

瑞々しく弾力のある肌に

全身に潤いと、ほり、ツヤを与えて、肌の柔軟性を保ち、生き生きとした健やかな肌に導きます。

全身スキンケア  
 さらっとした使用感  
 保湿成分AMP(アミノシリン酸)の配合  
 ・微かに香る天然香料



大塚製薬株式会社大阪支店  
 〒530-0005 大阪市北区中之島6-2-40  
 TEL:06-6441-6532



## 会員の異動 (敬称略)

### <新入会員>

- 米永哲朗 (米永歯科医院)  
 高木匡代 (医療法人平和会 吉田病院)  
 丸山仁美 (兵庫県予防医学協会)  
 鈴木美由紀 (兵庫県予防医学協会)  
 大和田絵美 (兵庫県予防医学協会)  
 渡辺真純 (㈱ダイエー)  
 能勢美和 (東洋製罐㈱高槻工場)  
 吉田未来 (松下産業衛生科学センター)  
 中島悦子 (日清オイリオグループ㈱堺事業場)  
 町谷卓男 (まちや歯科医院)  
 安野雅夫 (造幣局診療所)  
 中安郁子 (健康ライフプラザ)  
 松本久美子 (丸紅大阪診療所)  
 丸山賀子 (丸紅大阪診療所)  
 山口智子 (丸紅大阪診療所)  
 林田孝平 (武田病院画像診断センター)  
 河野裕美 (松下健康管理センター)  
 尾山利美 (松下電池工業㈱健康管理室)  
 山本美奈子 (なかじまちあき内科クリニック)  
 朴 永大 (幸循会 OBPクリニック)  
 谷口友理 (松下HA社草津 健康管理室)  
 長谷直美 (松下HA社草津西健康管理室)  
 上坂聖美 (三菱樹脂㈱長浜工場総務部健康管理グループ)  
 山本三恵子 (大阪府警察本部)  
 石田聡美 (大阪府警察本部)  
 横田恵理 (大阪府警察本部)  
 儀間佐和子 (大阪府警察本部)  
 渡邊由理子 (大阪府警察本部)  
 兵頭君代 (日本電気㈱関西健康管理センター)  
 井戸正利 (大阪府立健康科学センター)  
 須賀英道 (龍谷大学保健管理センター)  
 五十川泉 (龍谷大学保健管理センター)  
 中村典子 (龍谷大学保健管理センター)  
 増田直美 (龍谷大学保健管理センター)  
 小池由香 (龍谷大学保健管理センター)  
 野村 誠 (大阪労災病院)  
 青山雅恵 (三井製糖㈱生産本部 神戸工場)  
 山田妙韶 (関西福祉科学大学)  
 和田ゆき恵 (松下電池工業㈱健康管理室)  
 阪上 優 (京都大学保健管理センター)  
 濱崎直樹 (済生会奈良病院)  
 桑村明男 (マクセル精器㈱)  
 鈴木仙太郎 (公立高島総合病院)  
 畑尾亜紀 (京都大学保健管理センター)  
 大池奈津子 (京都工場保健会)  
 守田 浩 (ひつじクリニック)  
 花田由美子 (日生協健康保険組合)

## Nakanoshima Clinic 中之島クリニック

### 中之島クリニック開設1周年

皆様のご支援のもと、おかげ様で7月に開設1周年を迎えさせて頂きました。今後とも、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。  
 企業・健康保険組合様の健康管理・増進活動に当クリニックの施設をご利用頂きたく人間ドック等のご案内をさせていただきます。

1. エントリーコース 44,100円(税込)
  2. ジェネラルコース 男性47,250円(税込) 女性48,300円(税込)
  3. 宿泊コース 80,000円(税込)
  4. 脳 ドック 52,500円(税込) (3テスラの磁力を持つMRI)
  5. 心臓 ドック 73,500円(税込) (64列のマルチスライスCT)
- 又、MRI・CT等は健康診断の精査にもご利用ください。

〒553-0003 大阪市福島区福島2丁目1-2  
 電話:06-6451-6100 予約専用:0120-489-401  
 E-mail support@nakanoshima-clinic.jp  
 URL www.nakanoshima-clinic.jp

### <再入会>

- 森本兼曩 (大阪大学医学系研究科環境医学)  
 笹岡知子  
 渡部展代  
 奥野由美 (東京海上日動火災保険㈱)  
 戸谷由美  
 木村 穰 (関西医科大学健康科学センター)  
 西内恭子 (兵庫大学健康科学部看護学部)  
 神原正樹 (大阪歯科大学口腔衛生学講座)  
 山口茂樹 (慈友会堺山山病院)  
 牛尾順子 (パナソニックMSE㈱大阪健康管理室)

## 編集後記

待ちに待った労働者康状況調査の結果が厚生労働省より発表された。「仕事や職業生活に関する強い不安、悩み、ストレス」は58% (H9年62.8%、H14年61.5%)であるが、「健康である」とする労働者の割合は77.4%で前回より2ポイントの減少傾向にあることから見ても、この結果をストレートに受け入れがたい。また、心の健康対策に取り組んでいる事業所は33.6%であり、第11次労働災害防止計画では、メンタルヘルスに取り組んでいる事業所の割合を50%以上とすることが平成24年時点での目標となっているが、その開きは、まだまだ大きいものがある。従業員数100人未満の事業所での実施率が低く、大企業と中小企業の格差の存在は動かしがたいものがある。今回の結果をどのように読み解くか、近畿地方会員の現場の声を聞いてみたい。ページのURL

<http://www-bm.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/saigai/anzen/kenkou07/index.html>

(国際医療福祉大学小田原保健医療学部 荒木田美香子)

### 編集委員 (五十音順)

荒木田美香子・植本寿満枝(編集責任)  
 木村 隆・竹下達也・長澤孝子・宮上浩史  
 森岡郁晴(広報事務局)